

赤右衛門。病に犯され起居安のうべ。ありけるより残間者りく。快听说
たるや名に庭園ふそよて推進。丹波へ至地ふ平均のうんと謀殺く
脇坂をか勢と縦へ遣へたり。こゑ不因く日向も。勢威範を保津へ推
進せ。喊を作り音銳を响き。軍威威示しく試せたり。城兵取に劣らば。
防禦し。獨も屢せば一戦を奮へ。螺鼓擣鳴へく推進し。遠と詮進と
戰ふ意を脇坂甚内精しく視く。躬て大刀戦を益ゆると走勢にうち
鷹ひ。城兵をもく降參をもんに軍勢を退せり。勤と強にもと同意す。
中づ軍兵をもく立下退ひ。誰もう使者に遣えどもや。とりて成事内だ有り
置ふべ。乃夷姓く京達を歸佑をもんと望みたり。先秀これぞす
うへ。高儀をもく一決す。脇坂安治只一個重地ふ歎へ起さり。开も
遠赤井與右衛門が家緒を精しく語る。素原村上源氏へく枝葉丹
別に散在し。攝郡頼頼季七代の苗裔。赤井、後太象、度。同次郎、系絶兄
子源九郎、義経に隨逐し。の后小勳功せしゆく。又太へ逐ふ被登守教
経。うみに戮死し。お次弟ハ判官を供へし。奥州まぐ下里。安宅の園にて。
義経に代換く。忠死を遂たり。其後右幕下足をも二男とし。家
督を續せ。丹波船井郡を賜里く。赤井、後ち弟真と號し。從来八
代相傳し。赤井、後次弟宗忠へ。方夫不當の勇士ありしを足利等
持院殿丹波越山御着陣のまゝ。か一晩に北斎のまゝ。西國生ても
陽射せり。其忠功を濟めりて。而傾加堵す。丹波半國を褒揚
ある遠朐刑部に任せられ。威を國中ふ振ひたり。當日京懲遊
て。太山ふ投げる。機會よく獲れ。又山深と皆起るに當ある巖の洞窟より。現熟きの獸物跑出する。其